

2021 年度第 1 回 FD 情報・意見交換会の実施報告

【実施日時】 2021 年 9 月 10 日（金） 14 : 00～15 : 30

【実施場所】 Zoom によるオンライン会議

【参加者数】 104 名

【テーマ】 遠隔授業の事例紹介

【次第】 1. 趣旨説明

2. 発表

3. 情報交換（パネルディスカッション形式）

【発表者（3名）】

No.	所属	氏名	役職	内容
1	愛知工業大学 工学部電気学科	藤枝 直輝先生	准教授	電子情報工学専攻デジタル回路 1 における Moodle LMS の活用
2	愛知工業大学 基礎教育センター 自然科学教室	岡本 直也先生	准教授	遠隔教育アラカルト(キーワード：自動追尾動画, OBS + iPad による授業動画, Moodle を活用したオンライン試験, 数学, ハイフレックス授業の検討)
3	中京大学 教養教育研究院	森山 真吾先生	准教授	オンライン授業での学修行動設計：授業アンケート結果で学修の活動と効果、満足度を振り返る

【その他】

- ・終了後、Google Forms でアンケート実施（匿名形式）別紙添付

以上

2021 年度第 1 回 FD 情報・意見交換会のアンケート結果について

第 1 問

所属を選択してください。

愛知工業大学	92.3% (60/65)
他大学	7.7% (5/65)

第 2 問

職種を選択してください。

教員	87.7% (57/65)
職員	12.3% (8/65)
その他	0.0% (0/65)

第 3 問

本日の企画内容について、あてはまるものを選択してください。

満足	50.8% (33/65)
おおむね満足	49.2% (32/65)
やや不満	0.0% (0/65)
不満	0.0% (0/65)

第 4 問 (回答一部抜粋)

今回の意見交換会の中で、一番関心を持ったポイント、重要だと感じたポイントについて、具体的にお聞かせください。

- iPad と PC 併用による教材作成
- Moodle を利用したテストと不正検知について
- OBS + iPad による授業動画、自動追尾動画
- Quizlet の使用方法
- ハイフレックス授業については大変関心がありました。
- 遠隔だからというよりは、遠隔後も踏まえての授業設計の重要性を再認識しました。
- 遠隔でのテストのやり方
- 遠隔と対面で差がない授業
- 遠隔講義で黒板を使うのは、学生にとって見やすいのか疑問だった。パワポ等で画面上で手書きした方が見やすいのではと思いました。

- ・遠隔試験でのカンニングの見つけ方
- ・遠隔授業だからこそできる授業形態の模索が最重要と感じました。
- ・遠隔授業で学生に飽きさせないような工夫
- ・遠隔授業について、どのような選択肢があるのかという基本的な部分。
- ・学生のレスポンスの把握
- ・学生の集中力を保てるような配信方法と配信時間の工夫
- ・学生の注意を引く方法
- ・教員が画面に登場する方式は画面集中しやすかった。またライブ配信をオンデマンドに利用できるのも教材作成の手間が減るのは良いと思った。
- ・教員が柔軟性を持ち、いろいろな方法を試したり、状況に応じて軌道修正しながら進めていくところが重要だと感じた。
- ・今回の会のように、理系科目や文系科目の学際的な報告は、いろいろ異なる視点があるので重要だと感じました。
- ・最新のツールをうまく活用すると、授業の印象もだいぶ変わることがわかりました。
- ・試験不正検出方法は大変参考になりました。学生の不正防止の有効な手段となるよう期待します。評価方法はFD委員会でガイドライン化し普及させ、学生が不正をしなく文化を醸成してほしい。
- ・実際に対面式で授業を受けているように感じさせることや学生を飽きさせない工夫
- ・対面授業とオンライン授業の効果／習熟度(定期試験の結果)の比較
- ・対面授業と同じ効果をあげるための工夫

第5問 (回答一部抜粋)

自身の授業改善、所属学科・教室等の教育改善を進める上でヒントになったことなどがあればお聞かせください。

- ・Moodleによる小テスト
- ・クイズの方法、教師の画像を含めた講義配信 など
- ・やはり定量化は避けられないのかなと、評価の軸の変更について考えさせられました。
- ・リアルタイム型でも、工夫次第で集中力を持続させることができること
- ・遠隔講義でのブレイクアウトルームの使い方
- ・学生が、気軽に質問できる様な仕組みを、もっと積極的に設けていきたいです。一方で、様々なオンライン授業の実施方法があるため、学生が授業毎に異なるシステムで授業を受けなくてはならないため、少なくとも組織内においては統一したシステムで実施していくのが好ましいと感じました。
- ・基本的には人が授業を行うイメージが必要
- ・授業の満足度の向上に対する工夫
- ・授業の予習復習を学生が自然とするように促すことが大切だと思いました。
- ・授業時間の動的配分
- ・数式など板書が必要な講義では動画で静止した画面を表示するのではなくiPadなどを使って動的に文字を書き込んでいく講義形態に変更する
- ・対面授業とリアルタイム配信とオンデマンドを同時に行うという事例が理想に近かった。
- ・動画の撮影手法(追従機能など)
- ・不正行為の検出

第6問

FD 情報・意見交換会で扱ってほしいテーマや企画内容等について、ご意見・ご要望がございましたらご記入ください。

- Moodle を使った具体例、L-Cam と Moodle の併用例など
- Teams の授業利用事例
- Zoom の初歩的な 使い方
- オンラインテストの工夫／不正を起こさせない仕組み
- コロナ後の授業運営(対面と遠隔の割合など)
- コロナ収束後に、面接授業に戻ることは明らかとは思いますが、現在の遠隔授業の各種技術(対応・措置)がどう残っていくのか。収束後の授業形態のトレンド予測のようなテーマに興味があります。
- コンピュータ実習における基礎的部分(オフィス関連)レベルから、専門ソフト(特にノートパソコンのインストールに有料ソフトのアドビ製品)の場合の遠隔時の対応についての方策などを知りたい。
- データサイエンス
- どのようにするかの実演を教授いただくと助かります。
- 遠隔講義(オンデマンド・リアルタイム視聴)の対面講義に対する学習効果の統計的知見紹介があれば嬉しいです(定性的なメリット・デメリットではなく)。
- 遠隔授業が続く間は、引き続き、遠隔授業の関するテーマを企画してほしい。
- 基礎力がないのに放置している学生への対応
- 教員だけでなく、学生の発表をとりいれると良いと思いました。学生はどのような授業を良いと感じているのかの意見を聞いてみたいと感じています。また、事務の方でも ICT の利用を効率的にされている方の発表とか、あるいは、こういう作業が効率化されると嬉しい、人為的なミスを減らしたい等、そのような報告も良いかもしれません。より大学全体での視点があると面白そうです。
- 今後も遠隔授業が続くと思いますし、ノウハウも蓄積されると思いますので、また遠隔授業をテーマで扱ってほしいと思いました。ニューノーマルの時代の大学教育として、感染症に関わらず、遠隔授業を取り入れていく形になるかもしれません。
- 今様々なツールが出てきて、それぞれの先生独自に進められているので、その辺りを共有して、可能な限り統一した進め方ができると学生も混乱が少なくなると思うので、そういう取り組みをできる活動を期待したいです。
- 実験資料の配信や実験レポート授受に Moodle を使用しているが、仕様にやや不満がある。
- 実習や演習を伴う授業に関しては、なかなか解を見出せていません。オンライン授業主体となった場合の、進め方について、他ではどのように進めているのか事例を知りたいです。
- 授業形式のオンデマンドファイルの作成法
- 板書とパワーポイントのメリット・デメリットについて
- 第二弾を期待します。
- 参加する前に事例報告の先生からメッセージがほしい(タイトルだけでは内容の判断が難しいので数行程度の要旨も案内に含めてほしい)
- 開催の前に各先生方の資料が手元に欲しいと思いました。忘れないうちに早めの資料の配布を希望します。